# おやじサミットinオホーツク

## かわら版

平成２６年　９月１日　発行
文　責：北海道網走養護学校

# たくさんの御参加ありがとうございました。

おやじサミット in オホーツクの開催から早一ヶ月以上経ちました。当日は、おかげをもちまして、道内の各地から多くのおやじたちに参加していただき、盛況のうちに終えることができました。改めて感謝申し上げます。

さて、遅くなりましたが、今回のおやじサミット in オホーツクの内容についてまとめましたので、御覧ください。

## 感謝

北海道網走養護学校おやじの会
会　長　　長　野　聡　幸

全道から遠路はるばる、この網走の地に参加していただいた皆様、お忙しい中にもかかわらず、ありがとうございました。

限られた時間ではありましたが、それぞれが秘めた思いを少しでも打ち明けることができ、さらには聞くことができたことと思います。

１０回続いたこのサミットが、今回を節目に新たな１０回を作るべく、この灯りをつないでいきたいと願っています。

普段は子育てに無関心だと思われがちなおやじたちの本音をこのサミットから今後も発信し続けたいと思っております。

御参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。

# 講演「夢をあきらめない」

講師：長野オリンピック男子カーリング代表　敦賀　信人氏

今回は、本校のＰＴＡ会長の知人でもある敦賀氏に講演をいただきました。前半は、長野オリンピックの競技の様子を、敦賀氏の解説付きでＶＴＲを視聴しました。長野オリンピック当時、カーリングはまだまだマイナーな競技で、長野オリンピックが初めての国際舞台だったことや、オリンピックの中継で興味関心を持つ方が増え、競技人口が増えたこと等をお話いただきました。また、国際舞台で勝つことで自信をつけたことや言葉が通じなくても対戦することやジェスチャー等を通じて、相手国の選手と心を通わせることができたこともお話いただきました。後半は、引退から現在の活動の様子と演題である「夢をあきらめない」ことをリンクして熱く語っていただきました。

敦賀氏の言葉の中で、人を育てるためには「負けてもいいように思い切ってさせる」「失敗したときこそ声かけや笑顔を見せる」「相手と比較せずに目標を持ったら何が何でもやりきる」等がとても印象に残りました。教育の分野でも育成の分野でも、どの分野でもやはり大切なことは同じであると改めて感じた講演でした。

約１時間３０分の講演でしたが、皆さん食い入るように聞いていたのが、印象的でした。

また、どこかの機会でまたお話を聴きたいと感じました。

# 分科会～テーマ：おやじの夢

分科会は、８グループに分かれ、「おやじの夢」について、自由にディスカッションを行いました。悩みはありながらも、長くおやじの会の活動を続けていく工夫や地域によっては、おやじの会の活動を学校周辺の地域に広げる取組があったり、おやじたちの夢の実現に向けて、様々な意見や夢を語り合うことができました。

## 第１分科会の様子

それぞれのおやじの会で取り組んでいることの紹介がありました。（リンゴの木を育てる、車いす洗い、運動会の片付け＆ジンギスカン、ビニールハウスたて、もちつき、夏祭り等）また、おやじの会は、卒業生も、親も、おやじも、在校生も来るので卒業後のイメージを持つのにとてもいい機会であり、ＰＴＡではできないところが良い。札幌市では、市内のおやじネットワークは特定の小学校にあったが、今は地域に広げて、地域に貢献し、発信できるように頑張っている。昨年度の全国おやじサミットで初めて、特別支援学校のおやじの会も参加しました。普通小学校のお父さん方と一緒におやじの会をやっていくと、いろいろと気付かされることがあること等が話題に出ていました。課題として、次世代の育成が急務であることも出ていました。

## 第２分科会の様子

各校の取り組みが紹介されました。学校行事における出店（焼き鳥、カレー等）、冬場の行事の開催、車いすダンスの講習会等が紹介されました。また、おやじの会を活性化する工夫として、地域の高校の野球部やスキーのインストラクター等に協力を依頼して、行事を企画しているところもあるとお話がありました。その他に、ある高等養護学校のおやじの会の発足のきっかけとなったエピソードとして、中学部まで通っていた学校でのおやじの会の活動を進学先でも行いたいと希望したことから始まった学校もあったと紹介がありました。最後におやじの会が続く秘訣として、「細く長く」「背伸びをしない」等のキーワードが挙げられていました。

## 第３分科会の様子

各校の取り組みの紹介がありました。真駒内養護学校では、ＰＴＡ行事への教職員参加については、シェアシステムを導入し、できる時にできる人が参加する体制をつくっています。網走養護学校では、餅つきや冬祭りでのスノーモービル使用について紹介がありました。また、旭川養護学校では，参観日に，参観後ビニルハウスのビニール張り等を行っています。懇親会では「この中の六割は OK と言われています」と勧誘する等，参加しやすいように心がけているとのことです。札幌高等養護学校では，バーベキュー大会では親父が火起こし，学校祭ではおやじコーナー，PTA 懇親会では平日の夜（全寮制なので）に「夫婦で参加してください。」と案内する等，工夫していると報告がありました。最後に、おやじの野望として、学校を立ち上げる，自分の子どものＰＴＡ活動も頑張る，携帯のアドレスを学校の父親のものでいっぱいにしたい等、ますます元気が出てくるコメントがありました。

## 第４分科会の様子

第４分科会では、中札内高等養護学校と鷹栖養護学校の取り組みが紹介されました。４年前におやじの会が発足し、年間２回程活動を行い、ママチャリレースやバンド活動を行っています。おやじの会の良さとして、いい意味で無計画なところとお話がありました。また、ダウン症の息子さんがいるおやじの「こばと」の取り組みも紹介されました。その方の夢として、障がいのある方のチャレンジキャンパスを道内にたくさん作りたいとお話がありました。　また、鷹栖養護学校の冬場の取組として、「ノロッコ」「カーリング」「冬の滑り台づくり」等が紹介されました。これらの取組を通して、おやじたちが学校に来る機会が増え、お互いの顔が分かるようになったことが大きいとお話がありました。

## 第５分科会の様子

おやじの夢というテーマにて、話をすすめました。その中で、農業と福祉の連携はできないのか？ＮＰＯ法人を立ち上げるにはどうしたらいいのか？地域の支援を大きくしたい、地域で仕事をもらい、学習の幅を広げたいなど夢が語られました。

また、各学校のおやじの会の取り組みが紹介され、「おやじが楽しまないといけない、自分たちが楽しいことをやるからこそ、気持ちに余裕がないといけない。」「おやじの会があるからこそ、ネットワークが広がったり、人間関係が広がる。」等のお話がありました。

今後、父親が学校に来る機会を増やすためにもおやじの会があるとないとは大きな違いであることやおやじの会のＯＢの組織がしっかりとしている学校もあり、みんなで支えている要素が大きいことも語られていました。

最後に、参加者全員が打ち解けてきて、様々な個人的な悩みから学校の教員としての悩みを話す雰囲気ができ、あたらめておやじの会やネットワーク作りの大切さを感じることができました。

## 第６分科会の様子

終始、おやじの夢について意見交換がされました。網走養護学校のおやじの会のＯＢから夢を持つことの大切さと実現させた後に維持していくことの大変さ等のお話がありました。また、次の世代につなぐことと最終的なゴールとして、親が亡くなった後も子どもたちが安心して過ごせる社会の構築が挙げられていました。具体的には、後見人制度のような生涯のパートナーがいてくれればとお話がありました。また、おやじが先頭に立って、子どもたちを一歩外に連れ出していくような取組も必要であることや、子どもたちの良さや得意なことを売りに社会と係わるようなサポート体制を作り上げていきたい等の意見が

出ていました。

## 第７分科会の様子

主におやじの会の活動について意見交換がされました。中標津高等養護学校では、なかなかおやじたちが集まる機会が少ない中、年一度の懇親会や学校祭でカレー販売を行っていることが紹介されました。

また、おやじの会の良さについていろいろな意見が出されました。ＰＴＡ本体と比べると制約が少なく、自由に活動できるところやお母さん方にはないおやじたちの機動力や基本的なスタンスとして楽しければ良いなどの意見が出されていました。中でも、おやじたちはいろいろな仕事についているため、自分の仕事の特色を活かして授業をすることに取り組んでいる学校があることも紹介されていました。

最後に、特別支援学校は、どうしても孤立しがちなので、おやじの会を通して、どんどん地域やいろいろな方とつながることができれば良いと力強い意見も出されていました。

## 第８分科会の様子

第７分科会同様に、おやじの会の活動だけではなく、将来に向けての取組について意見交換がされました。特に高等部や高等養護学校を卒業した後に、どのように子どもたちをサポートしていけば良いのかということについて、早い段階から将来像を思い描いて、学校の先生方と相談していくことが大切であることや施設は充実してきているが、自治体によっては医療的ケアの子どもたちの受け入れやサポートには温度差があることのお話が出ていました。また、子どもたちがより生きやすい社会の構築に向けてどのようなことをしていけばよいのかということについて、身近なところからできることを広げ、少しずつつながりを広げていくことが大切であるとお話がありました。

最後に、卒業して社会に出たときに、子どもの成長を実感する等のお話を聞くことができました。

# 懇親会について

今回の懇親会は、網走セントラルホテルで、約１４０名の参加者が集まり、夜遅くまでおやじの夢を語らいながら、懇親をそれぞれ深めました。紋別養護学校ひまわり学園分校の片山氏のご挨拶の後、網走養護学校おやじの会ＯＢより寄贈された樽酒の鏡開きで宴会がスタートし、途中、網走市の手をつなぐ育成会のバンド＜しゃ～みん＞の演奏を挟み、恒例の各校の自己紹介を行いました。最後には、樽酒も全て飲み尽くし、おやじたちのすごさを感じた飲み会でもありました。

## 平成２７年度は、札幌西、北地区と小樽での開催です。

懇親会の最後で、次回の開催地区が指名されました。

まだ主管校は決まっていませんが、札幌市の西地区と北地区と小樽市のどこかでの開催と決まりました。

指名後、本校の長野会長から札幌市の西、北地区を代表して、札幌高等養護学校の松井教頭におやじの会のフラッグが渡されました。

後日、主管校が決定次第、年度末にでも平成２７年度のおやじサミットの案内が皆様にも届くことと思います。札幌市の西地区と北地区と小樽市の皆様、来年度、よろしくお願いいたします。